

そうだったのか!

# 学習評価

先生方の疑問に識者が答えます!

今号の  
テーマ

## 評価規準の設定と 運用のポイント

**Q** 生徒の資質・能力を適正に見取るために、ルーブリックを作ろうと考えています。どのように作成すればよいでしょうか。

**A** 生徒に期待する姿を示した「評価規準」を設定し、それを階層化すると、3段階に分けることができます。

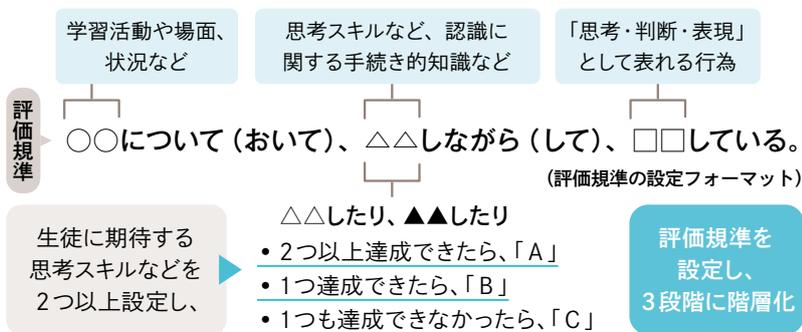
評価規準は、「その学習によって期待する生徒の姿」を具体的に言語化したものです。評価規準をどの程度達成したかという質的・量的な評価をするために、評価規準を設定した上で階層化することが考えられます。評価規準は具体的な文言で表現されるため、ペーパーテストでは見取ることが難しい資質・能力を評価することが可能になります。

具体的な作成方法の1つとして、評価規準を設定し、それが達成できたら「B」、達成できなかったら「C」とする方法が挙げられます。下図は、私が作成した評価規準を設定するためのフォーマットを用いた評価規準の例です（\*）。生徒に期待する思考スキルなど（下図の△△の部分）を複数設定し、2つ以上達成できたら「A」とすれば、3段階に階層化することができます。

評価規準を総括的評価に用いるのであれば、8月号の本コーナーで解説した通り、少なくとも同一科目で統一する必要があります。

また、評価規準は一度作成すれば完成するというものではありません。生徒の姿と照らし合わせて評価規準が機能するものになっているかを運用しながら確認し、必要に応じて文言を見直しましょう。妥当性と信頼性を高めることが適正な学習評価につながります。

### ● 評価規準の設定の例 「思考・判断・表現」の場合



△△の例：比較しながら／関連づけながら／見通しながら／工夫しながら など

□□の例：論述している／観察している／伝え合っている／計画を立てている など

\*田村学『学習評価』（東洋館出版社）と田村教授への取材を基に編集部で作成。

\*「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の設定フォーマットについては、『VIEW next』高校版 2023年10月号の本コーナー（P.28～29）をご覧ください。

回答者



國學院大学  
人間開発学部初等教育学科 教授  
**田村 学**

たむら・まなぶ 専門は教科教育学、教育方法学、カリキュラム論。文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官、同省同局視学官などを経て、現職。著書に、『学習評価』（東洋館出版社）など多数。

**Q** 学習指導要領や学校教育目標と照らし合わせてルーブリックを作成しましたが、教師の経験や感覚を基にした部分が多くありません。生徒の実態に即した評価するにはどうすればよいでしょうか。

**A** 生徒の成果物を教師間で見て評価結果を出し合い、それを踏まえて評価規準を調整する「モデレーション」がお勧めです。

生徒の実態がつかみにくかったり、異動してきた教師が多かったりすると、評価規準の設定に悩むこともあると思います。そうした場合にお勧めなのが「モデレーション」です（下図）。実際の生徒の成果物を基に検討するので、生徒の実態に即した評価規準を作成することができます。

モデレーションを通じて、教師間での尺度の水準がそろうことだけでなく、各教師の評価者としての力量の向上も期待できます。教師間の評価結果のズレが小さくなり、評価の妥当性と信頼性を高めることにつながるでしょう。

● **モデレーションの方法**

- 1 論文やレポートなど、評価対象となる生徒の成果物を、複数の教師が評価規準ののっとして評価する。成果物は、成績上・中・下位層から数人分ずつあればよい。
- 2 同じ成果物に対して、それぞれ何に着眼し、どのように評価したのかを話し合う。
- 3 評価結果が分かれた点を中心に、どのような評価結果が妥当だったのかを話し合う。
- 4 評価規準を見直し、必要に応じて評価規準の文言を修正する。

※田村教授への取材を基に編集部で作成。

**Q** 生徒をきめ細かく見取ろうと、5段階のルーブリックを作成しました。しかし、うまく活用することができていません。

**A** 階層間の違いが明確に分かる文言にできますか。あいまいな文言では解釈の違いが生じ、活用は難しいでしょう。

評価規準を設定し、その上で細かく階層化すると、正確に評価できるように思うかもしれませんが、しかし、細かくしても、「よく」「とてもよく」などとあいまいな文言になりがちで、階層間の違いを明確に表現することは難しくなります。観点別学習状況の評価との整合性を図る上でも、設定のしやすさという点でも、評価規準を設定し、先に述べたように「A」、「B」、「C」の3段階に階層化することが適切ではないかと考えます。

なお、評価規準が具体的だと、その姿を達成するための方法も考えやすくなります。すなわち評価規準は、授業づくりの指針にもなるのです。下図のように、評価規準は学習評価のためだけでなく、授業や学習の質を高めるためにも活用するとよいでしょう。

● **評価規準の様々な活用方法**

単元計画の作成や  
授業づくりの指針とする

学習目標として、  
生徒に提示する

単元末などに行う  
生徒の自己評価の指針とする

※田村教授への取材を基に編集部で作成。



**👍** ペーパーテストでは測りにくい資質・能力について、1単元の中で評価規準を設定し、3段階に階層化して評価してみましょう。

**👍** 冬季休業などのまとまった時間を利用して、実際に生徒が作成した成果物を見ながら教師間で話し合い、評価規準を見直してみましょう。